

**放送日** 平成29年2月1日（水）  
**担当者** 教育部学校教育課 主査 河合 一

おはようございます。教育委員会教育部学校教育課主査の河合です。

今日から2月に入り、年度末の業務に向けて職員皆さんは、これから忙しい季節を迎えるものと思います。

教育委員会においても、私が担当している小中学校の学級編成や教職員人事異動などの業務、また、小中学校においても、卒業・入学を控えた忙しい時期ではありますが、北広島子どもたちが、大志をいただき、心豊かに、たくましく成長する姿を思い描きながら、学校教育の充実に努めていきたいと考えます。

さて、教育委員会では、義務教育9年間の子どもたちの連続した学びと確かな成長を支える教育環境づくりのツールとして、平成30年度から全ての中学校区に小中一貫教育を導入します。

小中一貫教育の全国的な導入傾向としては、一部の中学校区をモデルケースにして、順次他の中学校区に拡大する傾向が多く見られます。

これに対し、本市がめざす小中一貫教育は、これまでの各中学校区での小中連携の取組を基盤とし、各中学校区の特色を生かした教育環境づくりを全市一斉に推進する取組であり、北海道内の自治体としても、先進的な取組と言えます。

小中一貫教育の検討・導入段階においては、教育委員会の適切なリーダーシップが求められます。

担当主査として、子どもたちの15歳の姿に責任と自身を持てる、そのような取組のツールとしての小中一貫教育を、市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら推進して参ります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月2日(木)

**担当者** 教育部学校教育課 主査 笹森 和宏

おはようございます。学校教育課青少年担当主査の笹森です。

市内の小中学生は平成3年の7,124人をピークに毎年減少し、平成28年には4,395人とピーク時の6割ほどとなっています。

小中学生が少なくなっても減少しないものの中に不審者に関するものがあります。声掛けや付きまとい、撮影、不審車両など様々な事案により不審者情報として配信した件数が毎年20件ほどあります。

今年度も既に26件発生しており、そのうち発生が間もない事案や重大事案など11件を緊急事案として周知しています。

現在、教育委員会では素早い連絡により不審者の特定につながるよう連絡体制を整えるとともに、児童生徒の安全確保を目的に不審者に関する情報をタイムリーに届けるため「不審者情報メール配信システム」を運用しています。

登録は、市教育委員会のホームページからできますので職員の皆さんをはじめ、ご家族や町内会の方々など、子ども達を取巻く多くの皆さんに登録いただき、地域で子どもたちを守り・育む安心安全な地域社会を構築することが大切だと考えます。

そして、子どもたちは家族という社会の中で生きる力を養い、地域という社会の中で交流を持ち、学校という社会の中で育っていきます。子ども達の学びを豊かにするためにも、私たち大人も子ども達とともに積極的に地域行事に参加しましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月3日（金）

**担当者** 教育部学校教育課 主査 福田 康生

おはようございます。学校教育課学校教育担当主査の福田です。

私の業務について説明させていただきますと、一口に学校教育と言いましても、特別支援教育、就学援助、奨学金、学校保健、音楽の授業の箏の運搬、体育授業の空手着の運搬など多岐にわたる様々な業務があります。

また、学校で突発的に起こるトラブルや保護者との相談業務もあり、スケジュール管理をしながら、毎日忙しく業務をこなしています。

日々の業務に追われ、周りの様子が見えていないことが多々ありますが、心のどこかに余裕を持ち、冷静な判断ができるようにしなければと考えています。

さて、みなさんは「ワークライフバランス」という言葉をご存知でしょうか。ウィキペディアによると、「仕事と生活の調和」と訳されており、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」という意味であるそうです。

もちろん仕事は仕事で責任を果たすことは当然ですが、私生活とのバランスを取ることが必要だと私も考えています。

私のストレス解消法は、カフェや洋菓子店で甘いものを食べることです。特にカスタードクリームが好きで、おいしいシュークリームのお店を求めて食べ歩いています。今のところ私のベストオブシュークリームは、白老町にあるマザーズのシュークリームです。カスタードが濃厚ですごくおいしいので、興味のある方はぜひ食べてみてください。

また、みなさんの好きなお店がありましたら是非教えてください。

話は少し逸れましたが、今後もうまくストレスと付き合い業務に励んでいきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月6日（月）

**担当者** 教育部社会教育課 主査 齋藤 洋平

おはようございます。社会教育課体育担当主査の齋藤です。

社会教育は、教育分野では学校教育と車の両輪ともいうべき重要な分野です。対象は広く、幼児から高齢者までそれぞれのニーズにあった取組となるよう市民や他部署と連携しながら事業を進めるよう努めています。その内私が担当する業務は、スポーツ分野で具体的にはスーパードッジボール大会やインドア子ども相撲大会、30kmロードレース、キッズスポーツ塾などの体育事業の企画運営、指定管理者で管理運営しています、総合体育館、輪厚児童体育館などの地区体育館、自然の森キャンプ場の施設修繕や指定管理者との連携、スポーツ推進審議会の運営、一部の体育事業の企画運営をしていただいているスポーツ推進委員との連携・調整などです。

以上のように多くの業務を進めるには一人ではできません。少数で業務を行わなければならない現在、私が業務を進める上で心がけていることは、「チームワーク」です。「チームワーク」を高めるためにコミュニケーションをスムーズに図るようスタッフとの会話を大切にしています。電子メールが当たり前となった現在、メールを送付して終わりにしていませんか？業務多忙な職場となっており、止むを得ないとは感じますが、私はあえて相手にメールした旨電話するよう心がけています。

社会教育の事業により子どもたちや市民が笑顔になって元気な市民が増えることがよりよいまちにつながる一つと考えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月7日（火）

**担当者** 教育部社会教育課 主査 若澤 路子

おはようございます。教育委員会社会教育課主査の若澤です。

社会教育に関する業務のうち、生涯学習活動の推進や、社会教育施設の管理・運営を担当しています。

業務の内容は、イベントの企画運営や、ボランティアなどの市民活動の支援、公民館やレクの森などの施設の維持管理など、ソフト事業からハードの管理まで、幅広い職場です。

特に春から秋にかけてのイベントシーズンは、日々、現場で巻き起こる事件と戦う毎日でしたが、幸いにも、スタッフや上司にも恵まれ、この一年を何とか乗り切ろうとしているところです。

現場対応の多い職場ですが、日々の業務を行うにあたって、できるだけ「情報を共有」し、「風通しの良い職場であること」、そして、「円滑なコミュニケーション」を心がけるようにしています。適切なタイミングで相手に正しく情報を伝えるとともに、相手の言葉に耳を傾ける努力を惜しまないようにしたいと考えています。

コミュニケーションを円滑に行うことは、職場の範囲においてばかりではなく、市民の皆さんに対しても、業務で関わり合う事業者の方、関係機関の方などとの間においても、大切なことと考えます。良好な人間関係のもとで、情報交換や意見交換を活発に行い、信頼関係を築きながら、豊かなまちづくりに繋がってきたいと思います。

コミュニケーションの第一歩は、日々の挨拶から。気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月8日(水)  
**担当者** 教育部文化課 主査 蛭名 優子

おはようございます。文化課主査の蛭名です。

文化課は、芸術文化ホールと図書館の二つの担当で構成されており、私は図書館で、読書推進・管理運営を担当しています。

図書館は、利用者とボランティアさんに支えられながら共に歩んで、来年10月で開館から20年を迎えます。昨年10月には、開館からの入館者が500万人を突破しました。施設自体は、少しずつ傷みや老朽化も出てきているところですが、利用については地域の情報発信、交流施設、また生涯学習の拠点となる社会教育施設として、市民の皆様によく利用されています。本の貸出数も開館から継続して、全道的にも高い数字となっています。

図書館には、毎日多くの方が訪れます。図書館を利用する目的はビデオやDVD・CDの視聴、調べもの、本の貸出、イベントへの参加など様々です。利用者、ボランティアさんに接するにあたり、日頃からコミュニケーションを大切にしています。あいさつや心の通った会話を心がけることから、施設を気持ち良く利用してもらい、また来たいと思っていただけたり、感謝を述べられたりすることが、私たちの仕事の大きな励みになっています。

毎週の通常業務では、本の受入、購入図書を選書・発注なども担当しています。図書館にない資料はリクエストとして他の市町村図書館から借り受けたり、購入することができます。

また、図書館には、地域資料を収集し、保存していくという重要な役割を担っています。特に郷土資料や行政資料など、そのまちの過去や現在の状況を知ることにつながる資料は、市民やまちの財産となります。図書館が管理、保存していくことで後世へと残すことにつながっていきます。職員の皆さんにおかれましても、工作上必要な資料などありましたら、ぜひ図書館の地域資料コーナーをご利用ください。

最後をお願いになりますが、庁舎内の職員の皆さんは、これから新庁舎への移転へ向け、資料整理や文書廃棄など行っていくことになると思います。その際に歴史ある北広島の資料や図書館に所蔵がない資料については、廃棄する前に図書館までご連絡・相談いただくと助かります。ぜひ、よろしくをお願いします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月9日(木)  
**担当者** 教育部文化課 主査 山崎 博夫

おはようございます。文化課主査の山崎博夫です。

明日2月10日金曜日に北広島市芸術文化ホールでは、札幌交響楽団のコンサートが開催されます。職員の皆さんにたまには家族で非日常の世界である、コンサートに足を運んでみてはどうでしょうかという提案です。

クラシック音楽のコンサートと言うと、“眠たくなる音楽”のイメージが先に思い浮かべる職員も多いと思います。そこでクラシックのコンサートに行ったことがありますか?と聞くと、行ったことが無いと言う人もけっこう多いようです。実際にオーケストラの音を生で聴くと、オーディオでは決して味わうことが出来ない感動に触れることができます。

クラシックの音楽が、全て名曲だと僕は思いません。何でこんな曲作ったのだろうとか、なんて出来の悪い曲なんだ、いや本当に眠たくなる曲だなというのにも沢山出会います。逆にこんな素晴らしい曲に巡り合って幸せだなと思うことも多いです。

今回の選曲は、僕が札幌交響楽団と協議して、“シューベルトの未完成”など、クラシックに詳しくない方でも楽しめる選曲にしました。またクラシックのファンの方々にも十分に楽しんでいただけるプログラムとなっております。

料金も札幌のキタラでの札幌交響楽団のコンサートの半額程度で聴けるお得なコンサートです。

明日は金曜日です、週末の幕開けの夜をクラシックのコンサート会場に、家族と共に過ごしてみたいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成29年2月10日（金）

**担当者** 教育部エコミュージアムセンター 主査 畠 誠

おはようございます。エコミュージアムセンター主査の畠です。エコミュージアムセンターがオープンしてから様々な事業を推進しています。

平成28年度の事業では、北海道博物館共催事業として、4万5千年前に北広島で生息していたケナガマンモスゾウを実物大模型として復活させるプロジェクトに取り組みました。のべ962人もの児童生徒や道都大学生が関わって完成した親子のマンモス模型は、9月25日まで北海道博物館に展示されましたが、多くの反響を呼んだため、11月20日まで延長して展示していました。

その後、札幌市青少年科学館、新千歳空港、札幌駅前通地下歩行空間などで展示して、現在、エコミュージアムセンターで次の出番はないかと一息ついているところです。

エコミュージアムセンターと北海道博物館は数年前からゾウ化石の共同研究を進めてきました。日本ではじめてマンモスゾウとナウマンゾウが共存していたことなど、定説を覆す結果が次々と分かってきました。これを子どもたちに伝えられないかと考えていたところ、今回のプロジェクトに結びつきました。中でも最も注目を浴びたのは、北広島で発見されたマンモスゾウを、地元の子どもたちが作り上げたということです。専門の研究者は、「目的を持ってこれだけ多くの子どもたちが作り上げたのは日本では初めてのことであり、今後一つのモデルになるであろう」ということでした。さらに、地質学会からは、この制作について発表を求められたため、「北広島の子どもたちが頑張って作りました」と自慢げに話してこようと思っています。今後も子どもたちに夢を持ってもらえる様、取組んでいきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成29年2月13日(月)

**担当者** 教育部学校給食センター 主査 須貝 初穂

おはようございます。給食センター須貝です。

光陰矢のごとしといいますが、早いもので私の公務員生活も37年を過ぎようとしております。昨年、北広島市は市制施行後二十歳の成人式を終えました。そして来年は平成に変わり三十路を迎えますが、この間、垣間見た街の遷り変りをほんの少しだけお話ししたいと思います。

37年前、北進通を上り中央通に至るまで、交差点の信号機は2か所ほど、線路側には、まだ林や広大な原っぱが横たわっていました。国鉄時代の北広島駅は今と同じ橋上駅で、東西を結ぶ鉄骨造の少し立派な跨線橋上にあって、駅の西口は北広島団地の顔でした。この西口の公園の中に大きな時計が建っていますが、ちょうど37年前に建てられたものであることをご存じでしたか？当時のままかどうかは分かりませんが、現存し今も時を刻み続けている時計です。当時北広島駅の一日の乗降客は4千人を超えていたそうで、確かに朝の出勤時には、通路の出入り口に行列ができていたのを覚えています。その後、東西連絡橋も駅舎も現在の立派なものとなり、東口も大きく姿を変えました。

もう20年以上も前ですが、新人職員の青年と机を並べ仕事をする機会がありました。その彼は、自分の街づくりに対する想いを語り、とても感心したことを記憶しています。昭和から平成へとバブル景気が弾けるまで、年間千人規模で人口増加を続け町から市へと、彼の想いどおりではありませんが、道路が拡幅され、山林が切り開かれ宅地や工業団地が造成されたりと、北広島は変わりました。

社会が割とのんびり、時間もゆっくりと流れていた感のある37年前とは違い、人口減少、少子高齢化の現代社会にあって、人生観や価値観の変化により、行政に対する市民ニーズは多種多様化しています。街づくりもそうですが、仕事はいつも市民目線で、迅速で適切・丁寧でなければなりません。信頼を築くには長い時間を要しますが、信頼が壊れるに時間は要しません。

築き上げられた信頼を壊すことなく、礼儀を欠かず、誰からも慕われ頼られる職員像を目指し、今日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月14日(火)

**担当者** 教育部エコミュージアムセンター 主査 三橋 聡

おはようございます。エコミュージアムセンター主査の三橋聡です。

エコミュージアムセンター知新の駅がオープンから2年が過ぎ、さまざまな事業を推進する中で、とても新鮮で刺激的な毎日を送っております。

エコミュージアムセンターでは、平成21年度に策定した「エコミュージアム構想」を具体化する仕事メインとなっています。旧島松駅通所や知新の駅の管理運営はもちろん、企画展や関連講座、まちを好きになる市民大学、体験講座、講演会など、エコミュージアムの中心施設としての機能が発揮できるよう、日々、学芸員と事務職が力を合わせて、いろいろな分野の仕事を進めています。

これらの事業の中で、平成21年度から継続している「まちを好きになる市民大学」ですが、先日2月12日に市民大学7期生の卒業式が行われ、7名の生徒が卒業されました。市民大学で学んだことを基礎としてそれぞれの卒業生が今後にも充実した活動をされていくことと思っております。

また今年度の卒業生を含め、これまでの修了生110人が「まるごときたひろ博物館員」に認定され、修了生の約7割が市民大学OB会員として精力的に学び続けたり郷土関係の活動を続けたりしていることから、今後ともOB会の皆さんと声を掛け合い、協働していく必要を感じているところです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月15日(水)  
**担当者** 消防本部総務課 主査 菊池 亮多

おはようございます。消防本部総務課主査の菊池です。

昨日は、バレンタインデーでしたが、職員の皆さんは如何でしたか。我が家にも二人の娘がおり、漏れなく手作りチョコを貰った次第であります。

さて、消防での私の業務は、主に消防を管理する業務であります。24時間、365日、消防活動の現場には休みがありません。ですので、現場活動が支障なくスムーズに運ぶよう色々な面で管理、サポートしていかなくてはなりません。事務的な業務が多いですが、とても遣り甲斐があります。

今、私が目標としている業務は、女性消防吏員の採用に関することです。当市には残念ながら女性消防吏員がおりません。平成27年に女性活躍推進法が施行され、国の数値目標として平成38年度当初までに女性消防吏員の割合を5%に引き上げるとしています。そのためには当市においても複数の女性消防吏員を確保して行く必要があり、特定事業主行動計画において、採用試験の女性受験者数の割合を10%以上となるよう目標としています。

去年は2名の受験者がいましたが、まだまだ足りない状況であります。受験者数増加のためには、もっとアピールが必要であると痛感しています。今後も積極的に市内の高校、大学はもちろんのこと、近隣の専門学校等にも足を運び、次年度は是非とも採用までたどり着けるよう頑張りたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にたく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月16日(木)  
**担当者** 消防署消防1課 主査 矢村 祐介

おはようございます。消防1課消防担当の矢村です。

私は4月から現在の担当に配置され、火災出動の際は主に消火活動にあたる消防隊として勤務をしています。

消防の目的は、市民の皆さんと連携を図り、災害の低減を目指すとともに、災害発生時には組織力を持って迅速・確実に対応して被害を最小限に抑え、まちづくりの基本である『市民の皆さんの安全・安心』を確保することです。

私は、『市民の皆さんの安全・安心』を確保するためには「準備」が大切だと考えています。心と身体、そして知識と技術を常にベストの常態でスタンバイする。最善の活動をするための準備を一瞬も切らすことなく保ち続ける。そういう当たり前のことを当たり前に行えるのが一番大切なことだと思います。

ただ、この「準備」も過去と同じことを同じように繰り返しているだけでは何も変わらないし何も生まれません。建築物の大規模・高層化、用途や管理形態の多様化が進むなかで、火災は複雑化し消火活動の困難性が高まっています。前例踏襲では、このような火災事象に迅速・確実に対応することはできません。当たり前のことですが、変化する災害に対しては自分も変化する必要があるためには常にアンテナを張り巡らせ、最新の知識と技術を習得して、昨日の自分より一歩でも成長することが必要だと考えています。

行動のABCである『当たり前のことを、ベストを尽くして、ちゃんとやる』をスローガンに、これからも消防業務に取り組んでいきます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月17日（金）  
**担当者** 消防署大曲出張所 主査 神代 守

おはようございます。消防署大曲出張所査察主査の神代守です。

私の仕事は建物の消防設備が適正に設置、維持管理されているか等、火災予防に関する仕事を行っています。

私の普段、心がけていることとお話しします。

特に気を使うのは、電話の対応です。

顔が見えないため、目の前で話をしている時と同じに話をする様心がけています。しかし、時にはうまく伝わらない時もあります。そういう時は、一呼吸置き、ゆっくり相手の話しを聞くようにしています。

相手が話しているときには、おちついて聞き、自分が話をするときは、相手の立場を考え、自分だったらと、想像する様にしています。

私はその時の状況により、素直に「ありがとう」の感謝の言葉を言えない時もあります。

そういう時は、心に余裕が無く、自分本意で物事を考え、相手の話を素直に聞けなくなっているときでした。

しかし、年を重ねるにつれ、心に余裕を持ち、素直に人の話の聞き、信頼される人間にならなければならないと思う様になりました。

ことわざに「実るほど頭の垂れる、稲穂かな」とあります。ただ年を取るのではなく、年齢を重ねるにつれ、あの人のようになりたいと思われる様に、また、どんな人にでも、誠実に心を込めて、対応していくことが大切だと思います。

これからも初心を忘れず、職場、地域、家庭の中で相手の立場に立ち、考え行動出来る人間になりたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月20日（月）

**担当者** 消防署消防1課 主査 佐藤 暢晃

おはようございます。消防署救助担当主査の佐藤です。

私が担当する救助1担当はスタッフ5名で構成され、災害が発生しても迅速に対応できるように日々、訓練や資機材の点検整備、体力練成に精進しております。

私達は、火災現場で消火活動を行うことはもちろんですが主な任務は人命救助です。

その任務である当市における救助出動は、数年前までは交通事故により車に変形して車内に閉じ込められるなどによる出動が大半を占めていましたが、近年は車の安全性能向上により、交通事故による車内閉じ込めは減少傾向にあります。しかし、その一方で現在では高齢化社会に伴い独居高齢者が増加して、離れて住む家族から「連絡が取れない」「家の中で倒れているのではないか？」などの通報による安否を確認する出動が増えてきています。

このような社会的背景の中で消防では春と秋の年2回において、約1100件（2年サイクルで実施）に上る70歳以上の独居高齢者を対象に防火訪問を行っています。

防火訪問では、火気の取扱い状況や地震対策をしているか確認をし、何か不安なことはないか聞き取りを行ったりもしています。また、時には世間話をするなどコミュニケーションを取り消防を身近に感じてもらえるよう心がけています。

今後もこれらの業務を通じて市民が火災に対する不安を解消し安心して日常生活を送ってもらえるよう日々職務に取り組んでいき、常に市民目線に立ち丁寧な対応が出来るよう努力したいです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月21日（火）  
**担当者** 消防本部総務課 主査 和知 真人

おはようございます。消防本部総務課管理担当主査の和知です。

私は、消防庁舎、消防車両や現場で使う資機材などの維持管理、栄典事務などのほか、消防団の事務局としての仕事をしています。

皆さんは「消防団」ってご存知ですか？消防団とは、普段自分たちの仕事に就いて社会生活していますが、住んでいる地域で災害が発生した時には現場に駆け付け、我々消防職員と協力しながら地域住民の生命・財産を守る組織です。現在市内には116名の消防団員がいて、東部団地、輪厚、大曲、西の里の4つの地域を守っています。

夜も明けきらない早朝5時。出勤前に技術を身につけようと訓練を重ねるその使命感と郷土愛には本当に頭が下がります。

いざ災害が発生したら「公助」である我々消防が真っ先に頼りにされます。それに応えるために準備をしていますが、広範囲に渡って発生する現場への対応には限界があります。阪神淡路大震災の時に救助隊に救出された人は全体のほんの2%で、ほとんどが自力で脱出したり、家族や隣人または通行人により救い出されました。

やはり「自分のことは自分で守る！」が基本になります。被災しなければ家族や隣人を救う側に回れます。災害に巻き込まれない人が多ければ、企業や町内会で助ける側が強化され「共助」が充実します。

私は、地域での災害対応の中心的な役割を消防団に担ってもらいたいと思っています。この地で生れ育ち、または地域に密着した生活をしている人たちが消防団の活動を通じて、身に付けた消火・救助技術や防災知識を地域に還元する仕組みを作り、安全で安心できる北広島を目指したいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成29年2月22日（水）

**担当者** 消防署西の里出張所 主査 御処野 昌範

おはようございます。消防署の御処野です。

私が過去に経験した救急出動のお話を致します。

ある日の勤務日、その日は「分娩」をテーマに座学を行い、その訓練中に出動指令が入りました。

指令内容は「病院へ向かう途中、父親の運転する車の中で妊婦が破水した」との指令内容でした。

現場に到着すると、父親の車の中で「陣痛」が始まっている状態でした。妊婦さんに陣痛間隔時間を確認すると10分くらいとの回答でしたので第一優先は救急車への収容と判断、隊員へ搬送資器材携行を指示しましたが、どうも陣痛間隔が短く数分間隔のため、救急車までの移動中に出産する危険が大きいと判断、父親の車の中で出産準備を行いました。

不安と緊張の中の活動でしたが、無事に元気よく生まれてくれましたので、まずはホッとしました。

搬送途上、私にも余裕が出てきたせいか「お母さん大丈夫ですよ。赤ちゃんは元気ですよ」などと不安そうな母親を励ましながら搬送しました。出産のため本州から里帰り中の出来事のようなようでした。

退院後には消防署へお礼の手紙が届き、お礼の言葉や赤ちゃんの名前が書かれていました。

成功して当たり前、失敗が許されない職種ですが、今回の事案は隊員間の意思疎通が取れチームワークが「新しい一つの命」を誕生させた出動だと思います。

今後もチームワークを大切に業務していきます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月23日(木)  
**担当者** 消防署大曲出張所 主査 目貫 進

おはようございます。消防署大曲出張所救急担当主査の目貫です。

今日は救急車の適正利用についてお話しします。

北広島市内の昨年1年間の救急出動件数は、2,140件で、昨年より118件増加し、1日平均5.9件の割合で救急車が出動しています。1年間に救急車で運ばれた人の数は、1,918人であり、これは、市民の約30人に1人が搬送されたこととなります。

皆さんは急病人やけがをされた方を発見し119番通報からどれくらいの時間で救急車が現場に到着するかご存知でしょうか？平成27年中の全国平均は、8.6分となっており、10年前と比べ、2.1分延伸しています。北広島市の平成27年中の平均は8.8分で、全国平均と比べるとやや遅い結果となっています。

常時運用している2台の救急自動車は、消防署と大曲出張所に配備されています。救急出動要請を受けると2台の救急隊のうち現場にもっとも近い救急隊が出動しますが、市内すべての救急車が出動中であった場合、要請があってもすぐに対応できないため、救急車の現場到着時間が遅くなってしまいます。

近年、単なる酒酔いや打撲など明らかに緊急性が低いと思われるもの、タクシーなど交通機関代わりに利用するケースや夜間・休日等に診てもらえる病院が分からないから呼ぶなど不適正なケースも見受けられます。

不適正な救急車の利用は、緊急性があり本当に救急車を必要としている人に対し、救命処置等が遅れて、救える命が救えなくなる心配があります。職員のみならず、市民にも救急車の適正利用のご協力をお願いします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月24日（金）

**担当者** 消防本部予防課 主査 佐藤 裕克

おはようございます。消防本部予防課査察担当の佐藤です。

先日から消防の各担当主査がスピーチをさせていただいていますので、消防ってこんな事もやっているんだとボンヤリ見えてきたのではないのでしょうか？

「市民の皆さんの安全・安心を確保する」 私たち消防職員がそれぞれの担当で、アプローチの仕方こそ違え最終目標に掲げている事でもあります。

さて、皆さんは立入検査ってご存知でしょうか？

飲食店や病院・学校・工場などに設置されている消火器や自動火災報知器などの消防用設備が適切に維持・管理され機能しているか？ 建物が不法に増改築され火災危険はないのか？ 等を現場に出向き確認し、不備があれば改善していただき被害を最小限に食い止められるよう指導をさせていただいています。

そのため市民の皆さんから比較的好意的に見られている消防職員の中でも特に「嫌われ者」のようです。

しかしながら、「安全・安心」のため不備は改善していただかなくてはなりませんので、なぜ改善が必要なのか、どういう危険が潜んでいるのかを丁寧に説明し、改善方法を一緒に検討して極力負担のかからないような方法を提案させていただいて、市民の皆さんに納得していただき早期改善を図ってもらうことを目指して、今後も立入検査を通じ、「市民の皆さんの安全・安心を確保する」という目標に向けアプローチし続けたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月27日（月）  
**担当者** 消防本部予防課 主査 小玉 浩司

おはようございます。消防本部予防課主査の小玉です。

私の業務は、新しい建物が建つときに、火災予防上問題が無いかチェックすること、市民の防火意識を高めること、そして、火災の原因を調査することです。

北広島市には、7つの幼年消防クラブと1つの婦人防火クラブがあり、幼稚園・保育園の子供たちが、防火パレードや北広島駅西口の正面にある防火花壇の制作などを行ってくれています。この花壇は、毎年、タクシートの運転手さんやクラッセホテル行きのバスを待つお客さんたちも楽しみにしてくれているようであり、私が水遣りを行っているときも、たくさんの方が笑顔で声をかけてくれ、たまに、花の育て方のアドバイスをくれたりもします。

このような活動が結び付いたのか、昨年の火災件数は12件と、昭和52年に次いで2番目に少ない年でした。少ないと言っても、住宅やアパートが火災の被害を受け、住人の方の大切な財産が失われることとなりました。中には、家族同然のペットの命をなくす方もいて、ペットに対して「ごめんね、ごめんね」と謝る姿を見ることもありました。

毎日、全国各地で火災が発生しています。火災を全くなくすことは、すぐには難しいのかもしれませんが、一般のご家庭の中を見せていただく機会もありますが、ストーブの上に洗濯物を干したり、電源コードを壁に強く固定したりしていることも、しばしば目にします。私はその都度「危ないから止めて」とお願いするのですが、このようなご家庭は他にもたくさんあることと思います。火災がなくなるよう、今後も火の恐ろしさ、火災の悲惨さを市民の皆様に訴えていかなければならないと感じおります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成29年2月28日(火)

**担当者** 消防署西の里出張所 主査 奥田 克治

おはようございます。消防署西の里出張所で消防担当をしている奥田です。

私の職場は出張所長を筆頭に片番4名の総員9名で勤務しています。消防本部は日勤ですが、消防署は24時間体制なので、全職員の8割強が当直勤務につき、1つの消防署と2つの出張所で北広島市をカバーしています。

私は30年以上にわたり救急業務に携わっていましたが、今年の4月から消防担当に異動し業務に励んでおります。

消防隊から想像することは「火災」が思い浮かびますが、火災出動はそれほど多くは無く、主な業務としては管轄内対象物の消防訓練の対応、災害予防の普及啓発や防火訪問、消火栓の維持管理などで、冬期間は降雪に伴う水利除雪も任務となりますが、点検に回ると付近住民の方が消火栓をきれいに除雪してくれている箇所も多く、非常に助かっております。

さらに消防隊として重要な事のひとつに、いつ発生するか判らない災害に対応するため各種訓練があります。

災害で記憶に新しいところでは昨年9月に発生しました台風10号による十勝地方の水害、12月には新潟の糸魚川で約30時間燃え続けた大規模火災が思い出されます。

50歳を過ぎて体や頭の衰えは否めませんが、共に勤務する仲間に励まされながら災害対応を学び、汗を流しながら今まで手にしていた注射針を消防ホースに持ち替え頑張っております。

私は、広島村に生まれ、広島町で教育を受け、北広島市で仕事をしてきました。今後もこの街に感謝し、市民が安心・安全に生活できるように関わって行きたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。